



2024.01

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹賀新年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 三好 誠治

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、4月に国立社会保障・人口問題研究所が「2070年に外国人が総人口の1割を占める」とした将来推計人口を公表、11月には政府有識者会議による「外国人技能実習制度の見直し検討」の最終報告書の取りまとめ、円安を追い風に急速に回復した「インバウンド」など、「外国人」に多くのスポットが当たった1年でした。

また、日本に在留する外国人数は昨年6月末時点で320万人を超え過去最高を更新しました。このうち徳島県は「7,343人」で県内の外国人比率が1%を超え、国籍別ではベトナムが最多で中国、フィリピン、インドネシア、韓国の順、在留資格別では技能実習、永住者、そして熟練した技能を有する外国人労働者が取得できる「特定技能」の順となりました。

これら外国の方々と違いを認め合いながら相互に理解し合い共生する地域社会を築くため、当協会では、在住外国人が県民とともに安心して生活できるよう「多言語での生活相談」に応じるとともに、「日本語教室」によるコミュニケーション支援、「外国人による日本語弁論大会」や「国際理解支援フォーラム」の開催、防災意識の啓発、阿波おどりを通じた文化交流「あらしわ連」の実施、「通訳ボランティア」の紹介など、様々な事業に取り組んでいます。

加えて、外国人に対する情報の受発信拠点として「とくしま国際戦略センター」を開設しており、本県を訪れる外国人観光客と地域に在住する外国人への各種情報提供サービスを実施しています。

新しい年の徳島は、2025年4月開幕の「大阪・関西万博」に向け、世界から人やモノが行き交う国際交流・連携の舞台へと更なる躍進を遂げるでしょう。当協会もこうした機会を捉え、徳島が外国人に暮らしやすい地域となることはもとより、徳島の魅力を世界に発信し多くの方が訪れるよう、今後も職員一丸となって地域の国際化の旗振り役としてその存在意義を一層高めるとともに県・市町村、民間団体の皆様としっかり連携し尽力して参る所存です。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年でありますことを御祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

災害時外国人支援対応訓練を開催しました

地域外国人コーディネーター
長田 有加里

令和5年12月5日、「令和5年度 大規模災害時外国人支援対応訓練」を実施しました。徳島県関係部署、県内市町村及び国際交流協会・地域日本語教室等の関係者、計20名が参加しました。

まず、講師の特定非営利活動法人 安芸高田市国際交流協会代表理事の明木一悦氏より、「災害時外国人支援及び多言語支援センター運営における留意事項について」と題し、災害時の外国系市民が直面する課題や災害時の情報トリアージュ、多言語化原稿作成のポイント、情報発信と伝達等について、ご講演をいただきました。講師のこれまでの災害現場経験を元にしたエピソードから、実際の状況をより想定し学びを多くいただきました。

次に【訓練1】災害発生・初動対応では、TOPIAに「徳島県災害時外国人相談センター」が立ち上がったことを想定し、多言語・多文化を考慮した掲示・来所者受入れ準備の環境設定訓練を行いました。続いて、外国人向けの情報発信として、入手した情報を緊急性によりトリアージュし、やさしい日本語を活用した原稿作成演習を行いました。外国系の方が情報を受け取ったときに、理解してもらうことが大切です。どの情報を選別し、どのように記載して伝えるべきか、また適切に翻訳されるためにどのような文章にすべきか、参加者で演習に取り組みました。



明木講師による講演



「災害時外国人支援センター」立ち上げ時の設営シュミレーション

最後に【訓練2】では、徳島県の進める事業に則し、「災害ケースマネジメント」として、災害現場での被災者向け相談会の実施と対応検討のためのケース会議シミュレーションを行いました。被災外国人と対面し、伝わる言語は何か、何に困っているのか、どのような支援が必要か等について、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）ツールやポケットク等を活用し対応訓練をしました。



被災外国人への相談対応の様子

講師からは、被災者の性別や文化的背景によって対応者や声かけの仕方を検討することや、日頃から外国系住民とつながる地域住民を把握しておくこと、また外国系住民が防災リーダーとして活躍することの可能性についてなど、多数助言をいただきました。

参加者からは、「実践訓練をすることで、取り組むべきことが明確になる」「継続して訓練することが大事」「やさしい日本語研修も必要」といった声があがりました。

なお、今回の明木講師による訓練は、CLAIRの「地域国際化推進アドバイザー派遣」事業を活用しました。多文化共生や国際協力分野で専門的な知識や経験を有する有識者の派遣により、災害時外国人支援対応にかかる先進事例の紹介を受けながら有意義な訓練が実施されました。

TOPIAは今後も徳島県での災害時における、外国系の方の支援対応力の向上と、彼らと協働した防災への取組などを展開していきます。



多文化共生型減災社会ワークショップ in 海部高校

国際交流・協力シニアコーディネーター
木村 純子

令和5年12月17日（日）、海陽町のNPO法人「あったかいよう」主催で『多文化共生型減災社会ワークショップin海部高校』が開催され、TOPIAは後援としてこれに協力・参加しました。（「あったかいよう」は、地域日本語教室を実施している団体です）

ワークショップの参加者は、海部高校防災クラブのメンバー9名、技能実習性等の地域在住外国人12名、地域の協力関係者として、地元企業・南部防災館・海陽町・海陽町社会福祉協議会の方々約30名が参加しました。

はじめに、TOPIAから「徳島県の在住外国人の状況」と「やさしい日本語」について説明を行いました。次に、アイスブレイクとして、一般財団法人自治体国際化協会の多言語情報等ツールを活用し、「避難者登録者カード」を作成する活動が行われました。「多言語指差しボード」を使ったり、「やさしい日本語」で話したり、図に書いて説明したりして、積極的にコミュニケーションを図ることでお互い表情が緩み、活発な交流が生まれました。

次に、南部防災館より、ポリ袋を使ってお米を炊く活動が紹介されました。避難が長引くときなど、湯煎であたたかいご飯を食べられるのは貴重なことです。

次は、「防災ゲーム」として、非常用持ちだし袋に何を入れるかを考えました。予め用意された33のグッズから、防災袋に入れる10個だけを選びます。5グループそれぞれに違うペルソナ（人物像）を設定し、必要なものを吟味しました。ペルソナは次のとおり：①男性高齢者、②技能実習生、③イスラム教徒、④20代男性・ペットづれ、⑤30代女性・赤ちゃんがいる。追加に必要なアイテムは、自分たちで提案します。

各グループの考えた案は、示唆に富むものばかりでした。各グループの発表の一部として、①高齢者：いつも飲んでる薬、入れ歯、認知症で身元がわからないと困るから身分証、②技能実習生：スマートフォン（家族の写真も入っている）、パスポート、カセットコンロ、③イスラム教徒：ハラール食品、お金、④ペットづれ：リード、抱っこひも、携帯トイレ、⑤赤ちゃんを連れた女性：消毒、衣服、おむつ、などが挙げられました。この防災ゲームをきっかけに、日頃から防災グッズを用意し、防災意識が高まることを期待します。

最後に、非常食として炊いたご飯の試食をしました。上手に炊けて、おいしく食べられて参加者は皆うれしそうでした。

参加者の声

- 外国人とは言葉の壁がありコミュニケーションが難しいと思ったが、翻訳アプリを使ったり、身振り手振りをして少しでも気持ちが伝わるのが楽しかった。
- はじめはみんな緊張した顔だったが、ワークショップで心が通じ合い笑顔が溢れている。
- 今回のワークショップは「NPO法人あったかいよう」主催で、多くの地域関係者の協力で実施されました。地域に根付いた活動の中で、地域外国人とも顔の見える関係が構築され、防災の意識を地域のみんなで高めていくことが大切です。



「多言語指差しボード」を使いながら、「避難者登録者カード」を作成



グループワーク中



缶詰やカレーなどの試食



グループワークの結果を発表

国際理解支援フォーラム2023 コミュニケーションの場づくりから進める多文化共生 ～多数派の意識を変えることの大切さ～

長期社会体験研修生
紀本 真理

令和5年12月13日（水）に、国際理解支援フォーラム2023をあいぽーと徳島と共催でアスティとくしまにて開催いたしました。

マリ共和国出身で、日本の大学の学長経験もあるウスビ・サコ氏をお招きし『コミュニケーションの場づくりから進める多文化共生～多数派の意識を変えることの大切さ～』と題し、サコ氏のバックグラウンドや30年にわたる日本での生活を通して、共生社会の実現に向けて一人ひとりが違うことを認識するマジョリティーの意識改革の必要性についてのご講演を賜りました。

その後、徳島県国際交流協会より徳島県の多文化共生の取り組みについて発表し、徳島県の在住外国人の現状について知っていただく機会をいただきました。

講演では、日本人はカテゴリー化をして差別や偏見を生む傾向があり、自分の当たり前が、相手の当たり前ではないということに気づくこと、一人ひとりが違う価値観を持つことを認識し、尊重し合うことの重要性を学びました。さらに、「自分を受け入れられる人は、他人を受け入れられる」という言葉が心に響き、自分の個性を大切に自己認識を高めて生きることを意識していけば、もっと多様性のある社会になるとご助言をいただきました。

日本の約40人に1人が外国人住民です。徳島県の在住外国人は7,343人と県内の人口の1%にあたり過去最多となっております。そのうちの33%が技能実習生であり、多文化共生社会実現に向けて日本人が外国人に先入観を持たずに、地域住民と手を取り合って輪づくりをして日本を選んでもらえる社会を築き上げていきたいものです。

フォーラムに参加されたみなさまが、ともに多様性を認め合いながら、住みやすい社会について考えるきっかけができたのではないのでしょうか。TOPIAは引き続き、みなさまと共に多文化共生社会について考えていきたいと思っております。

- ◆ 多文化（異文化）理解と多文化共生について、具体的（自身の他件）な内容でよく理解できた。
- ◆ 海外経験があり、固定概念で物事をとらえないよう心がけていたつもりでしたが、サコさんのお話をきき、まだまだ日本社会のマジョリティーに染まっていると感じました。何でも聞き入れる、空気を読んだりするだけでなく、自分から動いて、相手を参画させたいような、インフォーマルな場をつくっていききたいと思いました。



期間限定配信中

ウスビ・サコ氏の講演を12月末頃から1月末まで配信開始予定です。視聴方法の詳細は「あいぽーと徳島（徳島県立人権教育啓発推進センター）のホームページからご確認いただけます。是非、ご視聴ください！

あいぽーと徳島HP: <https://www.aiport.jp/>



職場体験を受け入れました

当協会では国際交流や多文化共生に関心を持つ県内の中学生、高校生及び大学生の職場体験を受け入れています。当協会の国際交流員や窓口相談員、JICAの国際協力推進員などから国際理解・多文化共生について知識を深めてもらうと共に、日本語教室への参加や外国人観光客への案内などにも積極的に対応してもらっています。今年度は2校の中学校から計5名が体験に参加しました。将来は日本の社会を担っていく一員として外国人と共通理解を持ち、言語・心の壁を取り除いて多文化共生社会実現に取り組んでほしいと願っています。

[参加した生徒の感想]

- 出身国や年齢が違っていても、日本語を学ぶために全員が協力し、分からないところは、互いに助け合う姿が素敵だと思った。
- 私たちは普段何気なく日本語を使っているけれど、外国の人からすると日本語はとても難しいことが分かった。
- 無意識に外国人だと線引きをして壁ができていたことを実感し、共通点を見つけて積極的に話したり、優しく手を差し伸べたり出来る人になりたい。
- 違う国に行った時、文化などが違うから、自分の国でできていることを当たり前だと思わないことを教えてもらった。



ホームステイ・ホームビジット事業



当協会では徳島県地域留学生交流推進協議会との共催で、徳島県内の留学生を対象に、ホームステイ・ホームビジットを実施いたしました。今回は昨年11月中旬から12月中旬にかけて、徳島県内留学生8名が参加しました。多くの留学生が日本の家庭に興味があったり、地域の方との交流をしてみたいと思っています。このプログラムを通じて、留学生たちはホストファミリーの方たちと交流を深め、より一層、日本語や日本文化に興味を持てただけだと思います。また、ホストファミリーの方たちも徳島で頑張っている留学生たちと交流をし、楽しい時間を過ごされたようです。皆さんから感想をいただきましたので、その一部をご紹介します。

ホストファミリーからの感想

- ☀️ 留学生と交流することで、その出身国への理解が深まって楽しいです。彼らにとっての日本の魅力を聞くのも面白いです。家族で共有出来る良い経験になっています。
- ☀️ 孫達が成長して、学生さんと年齢が近くなっているので、友達のように接することが出来ました。
- ☀️ 日本人とは異なる視点から、海外ワークショップへのアドバイスや植物の楽しみ方を教えてもらった。異文化が交わる面白さと大切さを短い時間でも実感することができた。

留学生からの感想

- 🍀 日本の文化と習慣が勉強になりました。特に、日本人の食べる前に「いただきます。」と食べ終わった後には「ごちそうさまでした。」と言うことをちゃんとしている道德のことが一番気になりました。
- 🍀 実際の日本家庭の生活を見ることができて日本への理解が深まった事が良かったです。
- 🍀 美しいお寺に行きました。晩御飯はホストファミリーの人たちが作った鍋料理を食べながらいっぱい話しました。
- 🍀 一緒に買い物に行ったり、家で一緒に家事をしたり、料理を手伝ったり、初めて日本の一戸建ての建物に泊まったり、初めて畳の上で寝る体験をしたり、本格的な日本食を食べたりしました！

皆さんの感想（一部抜粋）



日本語や徳島の文化にふれるバスの旅

令和5年11月26日に（公財）徳島県国際交流協会は「日本語や徳島の文化にふれるバスの旅」を開催し、中国・韓国・ベトナム・カンボジア・フィリピン・ウクライナなどから来た33名の参加者が、心に残る体験をしました。

最初に、藍住町歴史館藍の館を訪れ、参加者は藍染め体験で藍色ハンカチを染め、染め上がったハンカチを手にして感動していました。その後、午後は川内町の阿波十郎兵衛屋敷へ移動し、人形浄瑠璃を鑑賞しました。今回の公演は、阿波人形浄瑠璃平成座が、日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」登録10周年を記念して行った特別な舞台上、私たちは平成座から招待を受けて舞台を楽しむことができました。

約3時間にわたる舞台では、傾城阿波の鳴門の公演をはじめ、人形を操る体験や人形と一緒に阿波おどりを踊る体験など、多彩で魅力的なプログラムが展開されました。難しい日本語ではありましたが、大人も子供たちも釘付けになり、太夫の迫力のある語りや人形の動き・表情で浄瑠璃の魅力を感じることができたようでした。

昼食は川内町公民館で婦人会の皆さまから心温まるおもてなしを受け、日本の文化と同時に温かな地元の雰囲気も味わうことができました。今回のツアーを通じて、参加者は藍染めの美しさと歴史、阿波人形浄瑠璃を堪能し、日本の伝統と現代の魅力を感じる貴重な機会となりました。平成座・ユネスコ協会の皆様と婦人会の皆様にお礼を申し上げます。



八朔の収穫作業のお手伝いをしました

徳島県が実施する「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」のふるさと団体「しでの会」からの依頼で、当協会から参加者26名（中国・ベトナム・バングラデシュ）が「八朔の収穫作業」を応援しました。

美馬市穴吹町口山仕出原の「しでの家」で、「しでの会」の方から高枝切鋏の使い方や、八朔から採果鋏で枝をきれいに切り取る方法や注意点等の説明後、2班に分かれて、作業に取りかかりました。11月下旬でしたが、汗ばむ陽気で、参加者たちはジャケットを脱ぐなどして、元気に頑張ってお収穫をいたしました。

参加者たちからは、「また来年も参加をして、収穫を手伝いたい」や「日頃の忙しさから離れ、自然に囲まれた場所での収穫はとても有意義でした」などの感想をいただきました。

また、お昼休憩の時間に当協会からの参加者たちが他団体の方たちに自己紹介をし、中国語、ベトナム語、そしてベンガル語で「こんにちは」とみんなで挨拶の練習をしながら、交流をはかりました。



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

JICA海外協力隊秋募集説明会を実施しました。

○11月26日イオンモール徳島にて海外協力隊秋募集説明会を行いました。

JICAボランティア事業では、開発途上国の要望に合った技術、知識、経験を持った方で「開発途上国の人々のために生かしたい」と考える方々を年に2度（春と秋）募集し、選考、訓練を経て現地へ派遣します。派遣される人のことをJICA海外協力隊と呼びます。JICA海外協力隊は、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で途上国の課題解決に取り組みます。現在まで99か国へ5万人以上の派遣を行ってきました。職種も様々で180種類以上の職種があります。

今回の説明会では、協力隊経験者による協力隊体験談を2名の方にお話しいただきました。個別相談でも沢山の経験者と参加者がお話している姿がありました。また、今回徳島県では初めて試みた現在現地に派遣されているJICA海外協力隊とのオンライン生中継では臨場感があり、参加者にとっても参考になる時間だったように感じます。参加者の方々は、協力隊に参加を検討されている方からお買物のついでに海外の話聞きに来てくださった方まで様々でした。皆様の何かのきっかけになれば幸いです。



オンライン生中継の様子

いつか世界を変える力になる。

【お問い合わせ・資料請求】

JICA海外協力隊募集事務局
TEL : 045-410-8922

JICA海外協力隊



<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>



JICA海外協力隊

四国大学文学部国際文化学科にて出前講座を実施しました。

○11月2日四国大学にて出前講座を実施しました。

出前講座とは、協力隊経験者や技術協力専門家などを学校や地域に紹介し、講演やワークショップを行い、開発途上国や国際協力について知っていただくプログラムです。徳島県では随時出前講座を実施しており、今回は四国大学での出前講座でした。講師はJICA徳島デスク（徳島県国際協力推進員）が担当し、自身のJICA海外協力隊の体験談を交え国際的な問題である海洋プラスチックについてお話ししました。講義後半には、ワークショップ形式で「私の一日とプラスチック」というテーマで朝起きてから寝るまでどのぐらいのプラスチックを使用しゴミにしているのかを考え、ゴミにしない方法を各班で話し合いました。自分にできる国際協力は身近なところに沢山あると気づききっかけになっていれば嬉しいです。



出前講座の様子

過去の出前講座や応募方法についての詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】

独立行政法人国際協力機構（JICA）四国センター
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
電話番号：087-821-8825 ファックス：087-822-8870 メール：jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 出前講座



<https://www.jica.go.jp/shikoku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク：徳島県国際交流協会（TOPIA）内／徳島県国際協力推進員 服部

TEL : 088-656-3303 Email : jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP : <https://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>

「とくしま外国人支援ボランティア会員」

募 集 中

徳島県には約90か国、約7,300人（県人口の約100人に一人）の外国人の方が住んでいます。加速する少子高齢化と労働者の不足により、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。リモート講義についても御相談ください。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。



徳島県外国人総合相談窓口

徳島県で生活する外国人のみなさんが、暮らしやすい地域社会を目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、そしてベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に来所いただくか、お電話いただければ対応させていただきます。

開 所 時 間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

(1) 多言語(英語・中国語・ベトナム語)相談員の配置

(2) 電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】21言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

(3) 映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

(4) 対面式通訳機(ポケットーク)の導入(74か国語)

(5) 多言語翻訳アプリ(ボイストラ)の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：年末年始

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>